

1978 年の新年を迎えて

会 長 小 林 佐 三 郎*



会員の皆様、新年あけましてお目出とうございます。

本年も厳しい環境下でございますが、本会の課せられた使命に向つて積極的な事業推進に当る覚悟でございます。会員各位の絶大なるご協力をお願いいたします。

我が国の経済は、政府の 15 カ月予算編成などの対策にもかかわらず、世界的な不況と貿易問題、円高など暗い要因によつて、不況が一段と深刻化しております。不況の原因につきましては、新聞、雑誌その他で種々言及されていますが、所感を述べてみたいと思います。

- 1) 世界の経済は第二次大戦後、自由貿易によつて安定した繁栄を得てまいりました。我が国についてみますと、戦前は産業の技術水準が低く、絹を中心とした繊維産業以外は世界市場への進出はほとんど不可能でした。しかし戦後の混乱期から朝鮮動乱を経て、我が国の各企業は技術革新へ即応した工場建設、海外市場の開拓などの努力を重ね急激な成長を遂げました。その結果、自由貿易による利益を最も享受したのは日本であるといわれ、世界市場に新しい epoch を画しました。しかし、石油危機は世界の経済に大きな変動をもたらした停滞、下降しております。我が国ももちろん同じ影響を受けましたが、世界各国との競争力の格差は拡大し貿易は一方的な輸出増加となりました。アメリカ、EC 諸国をはじめ各国は貿易の不均衡を是正し、経済安定を図るため対抗策を講じつつありますが、特に最近の傾向は、自衛措置として保護貿易主義の色彩の濃い政策を打出し、我が国を厳しく批判しております。
- 2) 技術革新が第二次大戦後、先進国を中心に起こり、自由貿易の発展とともに産業の繁栄に顕著な貢献をしてきました。我が国では戦争によって壊滅状態になっていた各産業が、復興期のタイミングに合わせ、非常に大胆に技術革新に適応し新鋭工場を建設いたしました。新技術の Original は海外からの導入でありましたが、消化・改善し発展させて、技術革新の成果を最大限に吸収しました。特に運輸、石油化学、エレクトロニクス、鉄鋼が該当すると思います。しかしいつたん革新の歯車が止り、新しい革新の根源がなく打開策を見出せないと、経済は停滞、下降の一途を辿ります。現状はこれと合致しているように思われます。

* 本会会長、(株)日本製鋼所取締役会長

鉄鋼産業は基幹産業として経済発展の原動力であると同様に、当然基礎資材を供給しております。現状のようにマクロ的に滲透している不況に対しては、世界的沈滞の悪影響をまともに受けることになります。

我が国鉄鋼業が対応していく方法にはどのような手段があるでしょうか。

鉄鋼生産技術については、最新鋭の合理化された大型設備を駆使して、完成度の高い技術を確立いたしました。これは我が国が世界に優位性を保つ大きな柱となつております。特に多量生産部門では他国の追随を許しませんし、多種少量の生産体制も確立されてきました。ただこれらは、世界市場が門戸を開いている時には最高の効果を生みますが、市場の悪い現状ではよい効果を挙げることはできませんし、また特定品種の多量生産は市場を混乱させる危険性をもっています。

我々は今後、量産追求から脱却して造船、橋渠、機械、精密機械、原子力、海洋開発、宇宙開発とそれぞれの分野に適した鉄鋼材料の開発をきめ細かく行なうとともに、鉄鋼材料の給供可能な未来産業を模索して対応できる技術と材料の開発に努力せねばなりません。そのためには、関連産業との間に新たに共同研究体制を整える必要があります。

また情報過多の現在、技術開発の課題の模索を合理的に行なう必要が益々緊要になつてまいりました。そのために本会は、整備された情報の供給と、高い水準の情報収集を図るための技術情報体制の組織化を検討しておりましたが、本年度より本会内に「鉄鋼技術情報センター」を設置することになりました。

本年は以上の新しい共同研究体制の確立と、高度の情報収集に画期的なステップを踏み出す年となつたことを、会員諸君と共に決意を新たにしたいと思います。

終りに臨んで、会員諸兄のご健斗、ご多幸を心からお祈りいたします。